

平成23年11月30日

村上市議会議長 様

委員会名 厚生文教常任委員会

委員長名 川村 敏晴

常任委員会行政視察報告書

下記のとおり、行政視察を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 期 間 平成23年11月14日(月)～11月16日(水)
- 2 視察地 沖縄県浦添市・宜野湾市
- 3 参加委員氏名 板垣一徳委員・大滝久志委員・富樫宇栄一委員
長谷川孝委員・板垣千代子副委員長・川村敏晴委員長
- 4 調査項目 ・てだこ市民大学について(浦添市)
・美らがんじゅう体操について(宜野湾市)
- 5 調査の概要

沖縄県の浦添市で取り組んでいる「てだこ市民大学」ですが、完成度の高い市民大学の運営に、本当に驚きました。

名前の「てだこ」は、沖縄でいう太陽の子のことだそうです。大学の開校は平成20年からで、コミュニティビジネス・地域振興学部、健康福祉・スポーツ振興学部、文化振興・教養学部、地域・学校支援コーディネーター要請学部の4学部があり、それぞれ卒業するには、1年次19単位、2年次に29単位の合計48単位の取得が必須となっています。

5月から3月までのほとんどの木曜日と臨時に土・日や他の曜日の夜7時半から90分授業で、あらかじめ2年間の講義内容と講師がきめられていて、どうしても履修できなかった講義があった場合は、沖縄大学で同様の講義を受講すれば単位を取得できるなど、地元大学の協力も取り付けています。

そして、卒業生たちは、それぞれの地域においての、地域活動の担い手として、地域リーダーとして活動してくれる人が増えているそうです。

我が村上市においても、貴重な伝統文化や歴史ある伝統産業や食文化など、後世に伝えるべき事は山ほどあると思います。

そして、その事をしっかりと伝えるシステムを構築しておかないと、あっという間に消え去っていくことにもなりかねません。

このような観点からも、村上市政において、市を挙げて市民大学として、格式をもった学習体制が必要であると痛感して参りました。

宜野湾市では、市民のメタボリック症候群の度合いが全国的にとっても高い数値が出たことに端を発して、市民の健康維持、促進の為に、全市をあげ、市内の老若男女、全ての市民が、日常的に取り入れやすい体操を作り出そうと、作詞、作曲を地元のシンガーソングライターに依頼し、体操の振り付けは、宜野湾市健康都市宣言に基づく宜野湾健康づくり事業の運動部会のメンバーが考案したということです。

そして「美らがんじゅう体操」と名付けられ、各種の健康イベント以外にも、保育園から小・中学校や老人施設などあらゆる場所で、美らがんじゅう体操を取り入れるよう普及活動を推進しているところだということでありましたが、体操は1曲4分20秒で、約25キロカロリーが消費されるそうですし、また、足腰が弱く立ってられない方も椅子に座りながらでも、一緒に体操できるような簡単で、楽しい動きと歌詞と曲になっていました。

今後さらに普及推進を図り、日常的な運動として定着すれば、宜野湾市民のメタボ度の軽減につながってくると、担当者の方々は自信を持って取り組んでおりました。

当市においては、この健康のための体操だけでなく、村上市の各地区にある伝統文化のイベントでも違和感なく取り入れられる和洋折衷的な踊りがあってもいいのではないかと考えられますし、また、それを作り出すために、各地区の伝統文化や舞踊やダンスに関係する皆様にも制作に加わってもらい、村上市全地区を総動員して、作り上げることが、地域の一体感を醸成するためにも、大きな意義が生まれてくるのではないかと考えますので、村上市においても検討する価値は大きいのではないかと感じました。



浦添市の説明を受ける



浦添市役所前にて



宜野湾市職員より説明を受ける



美らがんじゅう体操



宜野湾市役所前にて